

地震予知はなぜ？

大失敗したのか？

地震学界の威信回復は
できるのか？

地球観測連合

地震学の権威は失墜してしまったか！

- 地震学界は、地震予知の可能性が高かった電磁(波)気の観測を無視し続けた傲慢さが、地震予知の発展を大きく阻害した。
- 地震学の中心であった日本地震学会は世界的な権威を失墜！
20年間、年100億円の予算を使ったが「**全敗**」！
- (1)揺れを見る**地震計学を優先した**地震警報は
地震微動発生後に出る地震警報は、直下が**間に合わない**！
- (2)地表の移動変化を見る1200ヶ所の新設のGPS観測網も
地表の変化は判ったが、地下深くの事は殆ど不明 **全敗**！
- (3)海洋に拡大中のトラフ地震等の海洋型観測網も
トラフ地震を予測する海洋観測も未だ予知できず **全敗**！

地震予知に毎年100億円(20年)も予算を貰ったが予知不能！学会の指導方針は疑問だらけ？

- **学会指導で**、超高感度地震計へ交換、GPS観測網、海洋観測網を敷設したが、
- いずれも失敗した。政府は予知から地震防災へと政策自体をシフト中である。
- 研究予算の配分を岩盤学会に任せた（各大学に分配）不作為の行為は責任重大。
- 予算獲得競争は、証拠主義（根拠データ提示）を執った為、地震データなど新しい開発は、殆ど蚊帳の外になり、新しい開発はできなかった。
- 20年間の結果、全敗した学会は地震の基礎研究が足りないとぼやいている。
- **私達市民学者に言わせれば**
- 地震予知の可能性があれば、根拠データに捕らわれず、例え市民学者の発案であっても予算を配分し、国を挙げて地震予知研究に取り組むべきだった。
- 学会の弊害（御用に群がる学者や民間会社の利益誘導）に流され、結果的に大失敗した。この責任はたいへん重く、信賞必罰の方針を貫く事で正される。
- **最も発展を阻害しているのは** これまでの大災害で、数々の失敗があり、多くの責任が失われているが、学界や関係庁は、誰にも責任を取らせていない。この無責任体制を許すから、学者達にも緊迫感が無くなり、地震予知もできないで平気！

国民一人ひとりの命を守る為に

地球観測連合(市民科学団体)

- やろうと思えば、殆どのことができるし、やる気も十分にある。
- 地震予知の基礎研究と開発実験は終了し、**実用型に仕上げる投資資金を待っている**。だけである。あとは、電磁気観測網と総合データセンターを設置し、危険警報の実用試験を行うだけである。
- 令和元年、地震予知の根本的**理論とメカニズム**を**世界初で発表**した。日本地震学会や日本地震予知学会にも公表し、関係者に説明をした。
- 地震予知の**3原則をクリア**できる観測装置やシステムも、ほぼ実験済みであり、実用型に仕上げ、システムを完成させるだけである。
- そして、地震を予見する電磁波ノイズ観測システムとデータ解析処理システムの**開発実験は良好**で、今後は、データ処理技術者とタイアップして、異常変化と災害予見情報の可視化と自動配信処理を進めるだけである。
- これで、災害の約1週間前に視覚化された情報が、**90%以上の確率で、予見情報が完成**し、皆さんの安全避難に役立つことになる。

災害の予見情報 近未来の予報

- ① 約< **1ヶ月前**>に異常観測情報が発信される。
いつ = ~月~週頃、どこ = ~地方で、大きさ = 大中の地震
- ② 約< **1週間前**>に予知情報が発表される。
いつ = ~月~日頃、どこ = ~県で、大きさ = 震度6以上
- ③ < **2~3日前**>に予知及び予見情報が発表される。
いつ = ~日、どこ = ~市付近 < 大きさ = 震度5~
- ④ < **数時間前**>に特別警戒情報が発表される。
いつ = ~時頃、どこ = ~市&町、大きさ = 震度6程度
- ⑤ 観測網のデータから予見できた情報を可視化して配信する